

# 外為マンスリーレビュー

2018/11/02

## 引き続きBrexit交渉が焦点

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ポンド/円</a>	⇒	アイルランド国境問題に進展は？ 予想レンジ:142.500~150.500円	2-3
<a href="#">豪ドル/円</a>	⇒	米中首脳会談を注視 予想レンジ:79.000~84.000円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



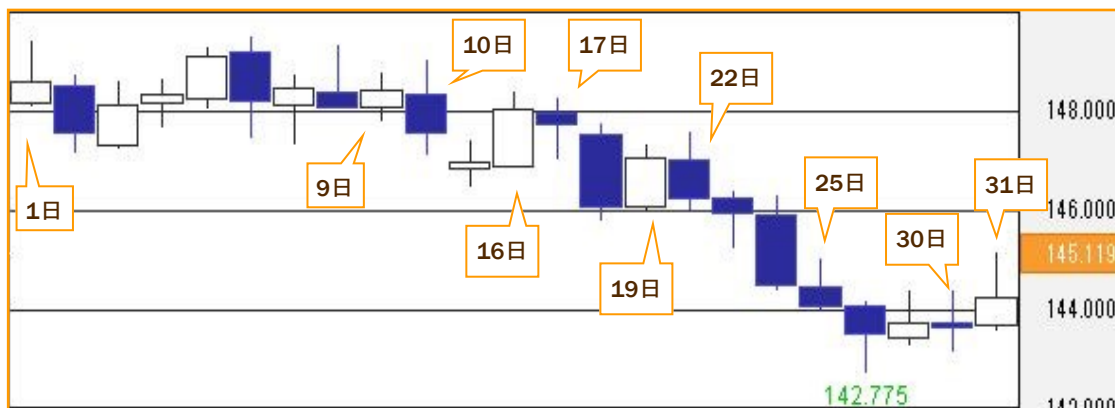
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承ください。

Copyright©2018Gaitame.comResearchInstituteLtd.AllRightsReserved.www.gaitamesk.com

## ポンド/円 10月の推移

# GBP / JPY

10月のポンド/円相場は142.775～149.507円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは2.6%の下落（ポンド安・円高）となった。上旬は、英国の欧州連合（EU）離脱＝Brexitが円滑に進むとの期待などから堅調に推移。8日には149.50円台まで上昇して9月に付けた5月以来の高値に迫る場面もあった。しかし、その後は、英国とEUの交渉が難航する中、一転してBrexitを巡る懸念が広がったため、ポンドが下落。Brexitに臨む姿勢を巡って与野党からの突き上げを喰らう格好でメイ首相の求心力が低下した事も市場の不安を高めた。26日には142.70円台の安値を付けるなど、高値から7円近くを僅か3週間弱で下落した。



### 四本値

OPEN	148.180
HIGH	149.507
LOW	142.775
CLOSE	144.245

1日	英9月製造業PMIは53.8と、市場予想(52.5)を上回り、前回(53.0)から上昇した。その後、一部報道で関係者の話として「英国はBrexitに向けてアイルランド国境問題で妥協を計画」と報じられるとポンドが急伸したが、長続きしなかった。
9日	一部通信社が外交筋の話として、「英国とEUは15日までに離脱条件に合意する可能性がある」と報じた事を受けて、Brexitに対する悲観的な見方が後退するとポンドに買いが強まった。
10日	英8月鉱工業生産は前月比+0.2%と予想(+0.1%)を僅かに上回った一方、英8月製造業生産は前月比-0.2%と予想(+0.1%)に反して減少した。また、英8月貿易収支は111.95億ポンドの赤字となり、赤字額は予想(108.50億ポンド)をやや上回った。その後、Brexit交渉について、EU側のバルニエ首席交渉官が、翌週のEU首脳会議での承認を目指す離脱協定の80-85%は完成していると発言。ポンドは対ドルでは上昇したが、対円では欧米株の下落が重しとなり下落した。
16日	英9月失業率は2.6%、英9月失業保険申請件数は1.85万件(前回:2.6%、1.42万件)であった。また、英6-8月週平均賃金は前年比+2.7%と、予想および前回(+2.6%)を上回った。
17日	Brexitを巡るEU側の首席交渉官であるバルニエ氏は「Brexitについての合意はまだない」「我々にはさらに時間が必要」などと述べた。なお、EU首脳会議はBrexit交渉の進展が不十分だとして、最終決着のため11月に開催を想定していた臨時首脳会議の計画をいったん取り下げることで一致した。
19日	複数の関係者の話として「メイ英首相はBrexit交渉の合意に向けて重要な要求を取り下げる」と報じられるとポンド買いが強まった。報道によるとメイ首相は、争点のアイルランド国境問題で無期限のバックストップを受け入れるとの事。ただ、報道が正しければ与党内強行離脱派と首相の対立が一段と深まる可能性があるため、買い一巡後はポンドが伸び悩んだ。
22日	メイ英首相はBrexitに関する交渉の進捗について議会で演説を行い「Brexit後の移行期間を延長するのは望ましくないが、それが必要になるような状況はある」などと述べた。これに対して与党・保守党内の強行離脱派から批判の声が殺到。一部英紙は首相の不信任決議案に必要な48票のうち46票が既に提出されたと伝えた。
25日	Brexitを巡り、ラブ英EU離脱担当相が「EUが譲歩しない姿勢を示すなら合意なき離脱のリスクはある」と発言したことが伝わるとポンドが小幅に売られる場面があった。
30日	Brexitに先行き不透明感が強まる中、ポンド安が進行。なお、格付け会社S&Pは「英国の合意なきBrexitの可能性は、同国の信用格付けに影響するほど十分に高まった」と指摘した。
31日	英国のラブBrexit担当大臣が「Brexitを巡る交渉は11月21日までに合意がまとまる見通しだ」との見解を議会への書簡で示した事を受けてポンド/円は145円台を回復した。

## GBP/JPY

## 日 経 平 均

## F T S E 1 0 0

## 英2年債利回り

## 英10年債利回り

OPEN	24173.37
HIGH	24448.07
LOW	20971.93
CLOSE	21920.46

OPEN	7510.20
HIGH	7526.20
LOW	6851.59
CLOSE	7128.10

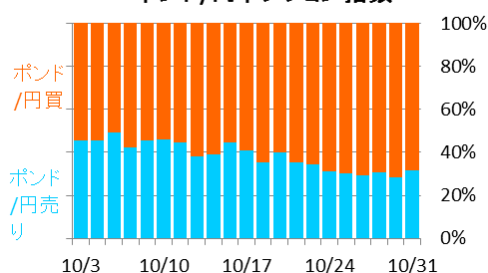
OPEN	0.829%
HIGH	0.936%
LOW	0.698%
CLOSE	0.751%

OPEN	1.577%
HIGH	1.749%
LOW	1.362%
CLOSE	1.437%

## 10月のポジション動向

## 11月の英国注目イベント

ポンド/円ポジション指数



- ・10月英製造業PMI(1日)
- ・BOE政策金利発表(1日)
- ・BOE議事録(1日)
- ・BOEインフレレポート(1日)
- ・カーニーBOE総裁会見(1日)
- ・10月英建設業PMI(2日)
- ・9月英鉱工業生産(9日)
- ・9月英貿易収支(9日)
- ・7-9月期英GDP・速報値(9日)
- ・10月英雇用統計(13日)
- ・10月英消費者物価指数(14日)
- ・10月英小売物価指数(14日)
- ・10月英生産者物価指数(14日)
- ・10月英小売売上高(15日)

[経済指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 11月の見通し

引き続き11月も英国の欧州連合(EU)離脱=Brexitがポンド相場の焦点だろう。「合意なき無秩序離脱」の回避に向けた英国とEUの協議が最大の注目点となる。11月のEU首脳会議が取り止めになった事などから見ても協議の進展は期待しにくい。メイ英首相は「私たちはすでに交渉の大部分について合意に至っている」と述べており、懸案の英領北アイルランドとEU加盟国アイルランドの国境管理問題以外は概ねケリがついたようだ。もっとも、メイ首相はこの国境問題が「最も困難」である事も認めている。

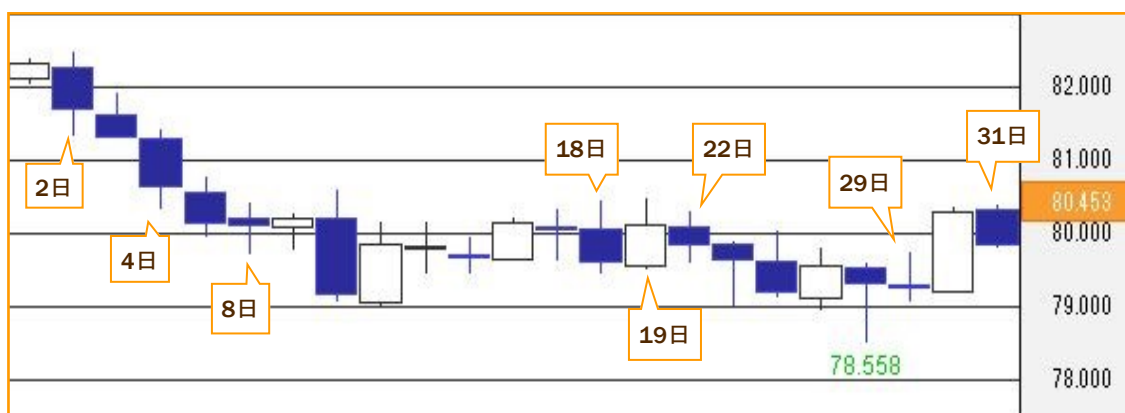
英中銀(BOE)は、11月1日の金融政策委員会(MPC)で「Brexitの影響をまだ判断できない」としながらも、Brexit後の2019年終盤から景気が過熱し始めるとの楽観的な見通しを示した。それだけに、アイルランド国境のバックストップ(防御策)問題が合意に至れば、ポンドが大幅に反発する事も考えられる。一方で、ラブ英Brexit担当相が示唆した11月21日が近付いても合意が見えてこない場合は「合意なき無秩序離脱」のリスクが意識される事になりそう。いずれにしても11月のポンド/円は英国とEUの交渉を睨んで神経質な相場展開が続きそう。(神田)

(予想レンジ: 142.500~150.500円)

## 豪ドル/円 10月の推移

AUD/JPY

10月の豪ドル/円相場は78.558～82.475円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは2.7%の下落（豪ドル安・円高）となった。豪ドル安に繋がった要因を列挙すると、①中国株・中国人民元の下落による同国景気の減速懸念、②米長期金利上昇をきっかけとする世界的な株価の下落、③イタリアの財政不安やイギリスの欧州連合（EU）離脱＝Brexit交渉の難航による欧州発のリスク回避ムード、④豪モリソン政権の弱体化懸念、などとなる。豪ドル売り材料が多く、買い材料が少ない中で豪ドル/円は26日に78.50円台まで下落して2016年11月以来の安値を付けた。



## 四本値

OPEN	82.112
HIGH	82.475
LOW	78.558
CLOSE	79.884

2日	豪中銀（RBA）は大方の予想通りに政策金利を1.50%に据え置いた。声明も「失業率の低下とインフレの目標達成にさらなる進展が期待されるが、進展は緩やかである可能性」「政策スタンスを変更しない事が経済の持続可能な成長と、時間をかけてインフレ目標を達成する事に一致すると判断」などと、概ね前回までの内容を踏襲した。ただ、中国本土が国慶節で休場の中、香港株が大幅に下落した事などから、豪ドル売りが優勢の展開となった。
4日	豪8月貿易収支は16.04億豪ドルの黒字となり、黒字額は予想（14.00億豪ドル）を上回った。しかし、豪ドル買いの反応はごく一時的で、香港株が続落して始まると豪ドル売りに傾いた。
8日	中国当局は前日に、経済の立て直しに向けて一部市中銀行の預金準備率を引き上げると発表。これを好感して豪ドル買い・円売りが先行したが、連休明けの上海株が引けにかけて下げ幅を拡大すると豪ドルは下げに転じた。
18日	豪9月雇用統計で、失業率が5.0%となり2012年4月以来の低水準に改善（予想：5.3%）。新規雇用者数は予想（1.50万人増）に届かず0.56万人増にとどまったが、内訳でフルタイム雇用者が大幅に増加（パートタイマーが減少）していた事が明らかとなった。これを受けて豪ドル買いが強まったが、人民元の対ドル相場が約1年9カ月ぶり安値を付けるなど「中国売り」が強まる中で上値は限られた。なお、午後に入ると上海総合株価指数が節目の2500ポイントを割り込み、約4年ぶりの安値まで下げ幅を拡大した。
19日	約4年ぶりの安値を更新して始まった上海総合株価指数は、易綱中国人民銀行総裁が「企業の資金調達支援を目的とした措置を検討している」などと発言した事を好感して反発。その後、中国7-9月期国内総生産（GDP）は、前年比+6.5%に減速し（前回：+6.7%、予想：+6.6%）、2009年1-3月期以来の低い伸びにとどまったが、市場にはネガティブな反応は見られなかった。なお、中国9月鉱工業生産は前年比+5.8%（前回：+6.1%、予想：+6.0%）であった。
22日	20日に豪州で行われたターンブル前首相の辞職に伴う補欠選挙の結果、与党・自由党の候補が敗北し、自由党は下院でも過半数を割り込む事になった。これを受けてモリソン首相の政権運営に対する先行き不透明感が広がると豪ドル売りが強まった。しかし、前日に中国当局が発表した企業の資金繰り支援策などの市場対策を好感して中国株が続伸。上海株の上昇率は一時5%に迫ると豪ドル/円は上昇に転じた。
29日	「11月に予定されている米中首脳会談で貿易面の対立を緩和できない場合に備え、米国は追加の対中関税を計画している」と報じられると、一時25000ドル台を回復していたNYダウ平均が24100ドル台まで急反落。豪ドル/円も下落に転じた。
31日	豪7-9月期消費者物価指数は前年比+1.9%と予想通りに前回（+2.1%）から減速。豪中銀（RBA）が重視する基調インフレ率は前年比+1.75%にとどまり、予想（+1.9%）に届かなかった上に、前回分が+1.9%から+1.75%へ下方修正された。直後に発表された中国10月製造業PMIが50.2と予想（50.6）を下回った事も豪ドルの重しとなった。

## AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	24173.37
HIGH	24448.07
LOW	20971.93
CLOSE	21920.46

## NYダウ平均

OPEN	26598.36
HIGH	26951.81
LOW	24122.23
CLOSE	25115.76

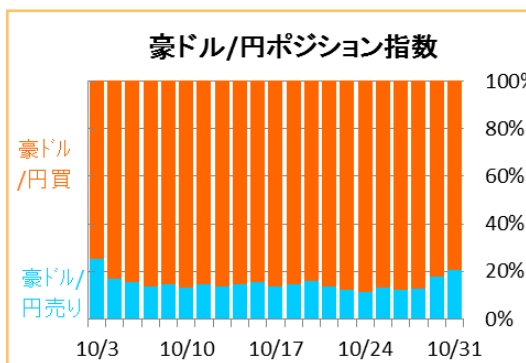
## 上海総合指数

OPEN	2768.208
HIGH	2771.938
LOW	2449.197
CLOSE	2602.783

## 豪10年債利回り

OPEN	2.668%
HIGH	2.769%
LOW	2.562%
CLOSE	2.627%

## 10月のポジション動向



## 11月の豪州・中国注目イベント

- ・ 9月豪貿易収支 (1日)
- ・ 10月中国財新製造業PMI (1日)
- ・ 7-9月豪期生産者物価指数 (2日)
- ・ 9月豪小売売上高 (2日)
- ・ RBA政策金利発表 (6日)
- ・ 10月中国外貨準備高 (7日)
- ・ 10月中国貿易収支 (8日)
- ・ 9月豪住宅ローン件数 (9日)
- ・ 10月中国消費者物価指数 (9日)
- ・ 10月中国鉱工業生産 (14日)
- ・ 10月豪雇用統計 (15日)
- ・ RBA議事録 (20日)
- ・ 7-9月期豪民間設備投資 (29日)
- ・ 11月中国製造業PMI (30日)
- ・ 米中首脳会談 (30日?)

## 11月の見通し

## 経済指標カレンダー(外部リンク)

11月の豪ドル相場は、中国睨みの展開となりそうだ。10月の豪ドル安は、中国人民元相場や上海株式市場の下落と歩調を合わせるものだった。豪州経済にとって、資源の主要輸出先である中国の経済失速は命取りになりかねないとの見方が強いためだろう。なお、中国の習近平国家主席は11月1日に、民間企業支援のため、さらなる減税や資金面の支援などを行う方針を示した。これを受けて豪ドル/円は、ほぼ1か月ぶりに81円台を回復。このまま、中国市場が落ち着きを取り戻せば、9月下旬から10月初旬にかけて上値を押さえ込まれた82円台半ばを突破して上昇が加速する事も考えられる。ただ、トランプ米大統領は、11月末の米中首脳会談(場合によっては12月頭にずれ込む可能性も)で成果がなければ、追加の対中関税を発動すると警告している。首脳会談に向けて、関連報道が活発化すると見られる上に、トランプ米大統領のツイッター(アカウント: @realDonaldTrump) 砲が火を噴く事も考えられる。それらの内容次第では豪ドル/円が急落するリスクも警戒されよう。(神田)

(予想レンジ: 79.000~84.000円)